

廣讚寺

ジャーナル



第193号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

そのかごを水につけよ

お寺で法話を聞いてるときはなるほどと思うが、家に帰ると何を聞いたかさっぱりと覚えてないということはありませんか。

私たちはザルです。水をくもうとしてもザルですから手元に来るときには水はありません。

それと同じで仏法もかごですくおうとしても自分の中に入れる前にどこかにいつてしまいます。

そんなときに蓮如上人は、そのかごを水につけよ、と言われます。

かご自体を水に入れればかごの中はもちろんすべてが水に満たされます。我が身が仏法につかるということとです。

お寺で法話を聞き、それを持って帰ることが重要ではなく、法話を聞き仏法につかる、それが大事なのではないでしやうか。



一喜一憂、右往左往、疑心暗鬼

田中智教

自分の若かりし頃を振り返ってみると、タイトルに当てはまるようなエピソードは幾度となくありました。歳を重ねるに連れ、大なり小なり様々な経験を積む中で動じない心が具わったような気がしていたのですが、

つい先日、新しい仕事に取り組んだ際、不安の中で発言が二転三転し、大変落ち込んだにも関わらず、翌日多くの称賛の声を浴びて気が大きくなる

という私の姿がそこにありました。何か確信をもって動じない態度や信念を貫くような生き方ができないものかと思い、『歎異抄』の言葉をきっかけに考えてみたいと思います。

念仏者（念仏）は、無碍の一道なり。そのいわれいかんとならば、信心の行者には、天神地祇も敬伏し、魔界外道も障碍することなし。

（『真宗聖典』六一九頁）

『歎異抄』第七条の言葉です。訳すれば「念仏する者は、いかなる妨げも受けない唯一の道を歩んでいる。その理由とはどういうことかといえば、信心をもって念仏する者は、天の神も地の神も敬いをもってひれ伏し、

悪魔や邪教からも邪魔されることはない」と理解して
います。ここに、仏教とはいえ神、魔界という言葉が
出てきますので補足しますと、「天の神」「地の神」の
神は仏法の内から守護する神のこと、「魔界外道」は
仏法の外から妨害するものを意味します。

そこで、もう少し現代の言葉を用いて表現しようと
思う時、

《念仏を中心とする考え方は、他のことが気になら
ないし、いらぬ影響も受けない。念仏には絶大なる力
があり、私たちが徹底して歩むことのできる唯一の道
を開いている》

と解釈しました。人間の生き方とは、ともすれば真実
から目を背け、世間の常識に流され、間違った根拠を
元に生活をしているといえます。しかし、この『歎異
抄』の言葉から感じ取ることのできる親鸞聖人の態度
には「確固たる信念」を感じます。

その徹底できる
唯一の念仏道を知
らされると同時に、
道から外れ、迷い、
彷徨っている自分
も知らされるので
す。

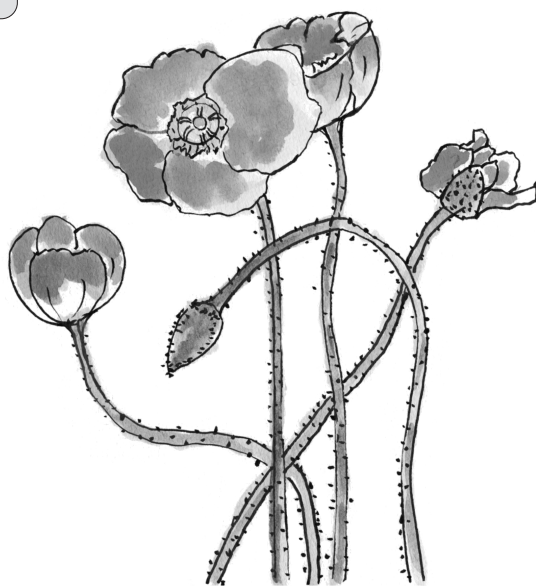


とりあえず

物をぶつけてしまい窓ガラスにヒビが入ってしまった。とりあえずガムテープでおさえておいて、時間があるときにガラス屋さんを呼んで修理をしてもらおうと考えます。しかしなかなか修理の機会がなく、何年もたつた今でもガムテープで応急処置をしたまま。よくある話です。

「とりあえず」という言葉が口ぐせになっていませんか。「とりあえずこうしておこう」「とりあえずはこれでいいだろう」と。しかし生活をスピーディーに過ごすにはこの「とりあえず」という言葉は便利です。とりあえずとは、「仮に」ということです。「仮に」したままで放置をすればいつの日か仮ばかりの生活になってしまいます。

「とりあえず」でいっぱいになりいつのまにかどこを見てもむなしく感じるようになります。



行事予定

四月二十八日(日) 十時 親鸞聖人ご命日のお勤め

同朋会例会

(同朋会地区委員は十五分前に集合)